

中等科（女子部・男子部）

広島研修旅行

竹上 尚子

2023 年度の中等科 3 年広島研修旅行は、男子部女子部合同で 10 月 30 日（月）～11 月 1 日（水）までの日程で実施した。広島研修を始めて 13 年目となる今回、共生共学化に向けたカリキュラム統合の一環として、これまでの積み重ねの上に男子部が新たに加わり、初めて男女合同の学びが実現した。

旅行に際し、両方の部から選出されたリーダーや係との会議を定期的に取りながら準備を進めた。事前学習の発表は合同で行い、資料作成にも精力的に取り組んだ。

1. 準備期間

9 月 9 日（土）リーダーと係を決める

リーダー J 近藤・藤村・渡部 D 藤下・山野

宿泊 J 大貫・川辺 D 尾辻・根本

交通 J 小林・小柳 D 柳下・山家

両部でどのように協力していくか、合同のミーティングを 3 回ほど取り、進捗を共有しながら進めた。

2. 事前学習

9 月 10 日に 2 時間続きの調べ学習時間を計 6 時間ほどとり、グループに分かれてスライドを作り発表した。時間割の関係上、女子部男子部、別々の時間帯にそれぞれが学習したが、それぞれの切り口でまとめ、合同発表を行い、互いに聞き合うことができた。併行して、調べた内容を紙にまとめ、小冊子にして全員に配布した。

3. 研修旅行

【3 日間の行程】

1 日目 大久野島（第 2 次世界大戦中、日本軍が秘密裏に毒ガスを製造していた島）

ガイドによる毒ガス資料館見学と島内の戦跡めぐり

2 日目 広島平和記念資料館 平和公園内の碑めぐり（広島友の会の案内）

平和についての講話と対話（児童文学作家で広島出身の中澤晶子氏）

3 日目 本川小学校（爆心地近くで被爆した小学校）

小学校内の平和資料館見学とお話

4. 中澤晶子氏の講話

講話をお願いした中澤晶子氏は、学生時代を広島で過ごされ、その後も長きにわたり広島で児童文学作家として活躍されている。「14 歳のヒロシマ」シリーズの 3 部作を出版され、修学旅行生に同行された経験が題材になっているなど、生徒にも親しみやすい内容を執筆されている。

【生徒の感想より】

・中澤さんの、「当時の記憶はうすれていってしまうけれど、家族を失った悲しみは絶対に消えない」という言葉が印象に残った。今まで事前学習や資料館では知ることができなかったことを聞くことができてとても良い学びになった。

「〈なぜ〉を考えることが大事」という言葉にもなるほどなと思った。韓国人の慰霊碑を見た時、なぜ韓国人が日本にたくさんいたかなんて考えもしなかったの、〈なぜ〉考えることを意識し、新たな視点を見つけれと思った。（後略）

・「平和と人権はセット」「戦争がなくなる＝平和 ではないかもしれない」、戦争から 40 年後、ドイツのヴァイツゼッカー大統領が子どもたちに向けた有名なスピーチに、「これまでの戦争について責任はないが、同じ過ちを繰り返さない責任はある」という言葉がある。

中澤さんが、自分がなんとなく感じていたけれど言葉にできていなかった気持ちを分かりやすく言葉にしてくれた気がした。「原爆を自分の言葉で語れるようになってほしい」という言葉を聞いて、それは原爆を自分ごとのようにとらえることにもつながるから、とても大切なことだと思った。（後略）

5. 研修旅行を終えて

【女子部リーダー】(学園新聞より引用※(1))

「1 日目は、瀬戸内海にある大久野島に行き、戦争の加害の事実を学んだ。日本は、戦時中の約 16 年間で約 6600 トンの毒ガスを製造し、アジア諸国で使用していた。国からの命令で毒ガスを作った人、直接ではないが島で働いた人、毒ガス弾を落とされた国の人などたくさんの人が今も昔も健康被害に遭っている。しかし、国からの補償は一切ないのだと聞いた。戦争が終わった今も、被害の問題は終わっていないのだと実感した。

今回私たちは児童文学作家の中澤晶子さんからお話を伺い、質問しながら対話する機会もあった。一つ一つ考えさせられることばかりだったが、特に「自分が見たこと、感じたことを『ワタシゴト(私事＝渡し事)』としてこれからの世代に伝えていく」という中澤さんの言葉が心に残った。戦争を経験したことがない私たちだが、その言葉を心に留め今回の研修旅行で学んだ戦争の事実をいろいろな人に伝えていけたら良いと思う。」

【男子部リーダー】(学園新聞より引用※(2))

「2 日目は、平和記念資料館を見学した。中は暗く、展示してあった写真、絵、言葉、どれも現在の日常生活からは想像できない悲惨なものだった。その後、広島友の会の案内で、班ごとに平和記念公園内の慰霊碑を巡った。ずらりと並ぶ犠牲者の名前を見て1つの爆弾とは思えなくなった。どの碑にも千羽鶴が供えられていて、人々がいかに悲しみ、想っているのかを肌で感じた。

翌日見学した本川小学校では、爆弾の影響を受けた校舎の一部が残っていたが、生徒は 1 人以外全員亡くなったそう。私たちは、お母様が被爆したというガイドの岩田さんに案内していただいた。朝、働きに行った先で原爆が落ち、それっきり会えないまま家族を亡くしてしまったという話を直接に聞き、強い衝撃を受けた。原子爆弾が引き起こす被害は桁違いで、目に見えず、被爆した人たちを苦しめる。核兵器がより恐ろしくなった。今回の経験をきっかけに、自分にとっての「責任」について考えていきたい。」

6. まとめ

2011 年から始まった広島研修旅行も 13 回目を迎え、あらたに男子も参加できる環境になったことは大いに意義がある。女子部、男子部、それぞれの生活の中で学習や運営のための時間をとり、試行錯誤の期間でもあった。研修旅

行の担当教員である男子部の菅野・鈴木佑先生とは、常に相談しながら新たに組み立てていく部分もあったが、生徒たちが前向きに準備に関わって共に進められたことが心強かった。

また共に学び準備する中で各部の特性も表れた。丁寧に準備を進めてよい力を発揮した女子部生、現地でお話を伺ったあと、活発に多くの質問をした男子部生、お互いの長所を発見し、尊敬の念をもてたことは一つの収穫であったと思っている。

事後学習として「広島研修旅行ワークシート」を提出した。また、国語の勉強を兼ねて全員がお世話になった方々へ手紙を書いた。

2024 年度は共学の体制で研修旅行を実施することになる。その前段階としても大きな足掛かりとなる研修旅行であった。

引用文献

※(1)女子部中等科 3 年リーダー 藤村豊羽子 近藤佳奈子 渡部小暖「初めて共同で平和学ぶ」『学園新聞』第 739 号 2023 年 11 月 30 日。

※(2)男子部中等科 3 年リーダー 藤下弦 山野蒼空「初めて共同で平和学ぶ」『学園新聞』第 739 号 2023 年 11 月 30 日。



大久野島 戦跡前にて



平和記念公園 碑めぐり



原爆ドーム前 集合写真